

遠藤 玉夫先生を偲んで

戸田 達史

東京大学大学院医学系研究科 神経内科学 教授

日本筋学会 副理事長

2024年10月9日、日本筋学会理事としてご活躍された遠藤玉夫先生（東京都健康長寿医療センター研究所）が、享年70歳でご逝去されました。あまりにも早すぎるお別れに戸惑うとともに、深い悲しみを感じております。遠藤先生のこれまでの多大な学問的ご功績と日本筋学会への御尽力御貢献に対して心より深謝申し上げますとともに、先生の御冥福をお祈りします。

遠藤先生は千葉県のご出身であり、昭和52年東京大学薬学部製薬化学科を卒業後、大学院を経て、ベイラー大学研究員、東京大学医科学研究所助手、東京都健康長寿医療センター研究所部長をへて、同研究所副所長になられました。

また日本糖質学会の会長、日本糖鎖科学コンソーシアム(JCGG)の会長として糖質科学の発展に寄与されつつ、日本学術会議会員として日本の科学を牽引して来られました。その間、東京都知事賞、朝日賞、日本学士院賞などを受賞されています。

研究面では、皆様もご存知のとおり遠藤先生は、*O*-マンノース型糖鎖の生物学と筋ジストロフィーの病態医学の領域を世界に先駆けて切り開かれました。新しい糖鎖の発見という基礎レベルから糖鎖合成異常症の謎を解き明かし糖鎖の人体生理の意義を示した研究は世界で高く評価されています。

私はおそらく筋学会の中では遠藤先生と関わりが深く、追悼の意をこめて思い出を書かせていただきます。遠藤先生と初めてお会いしたのは1997年頃の筋ジストロフィーの班会議と思います。清水輝夫先生の紹介で、小生の同級生の故千葉厚郎・前杏林大学神経内科教授が遠藤ラボで研究を行い、ジストロフィン蛋白複合体の中心ジストログリカンには *O*-マンノース型という変わった糖鎖が存在するという論文を出された頃、と思います。その後2001年のある日、遠藤先生から連絡がありました。遠藤先生たちが追っかけていた POMGnT1 という *O*-マンノースに GlcNAc をつける酵素が、福山型筋ジストロフィーの仲間の muscle-eye-

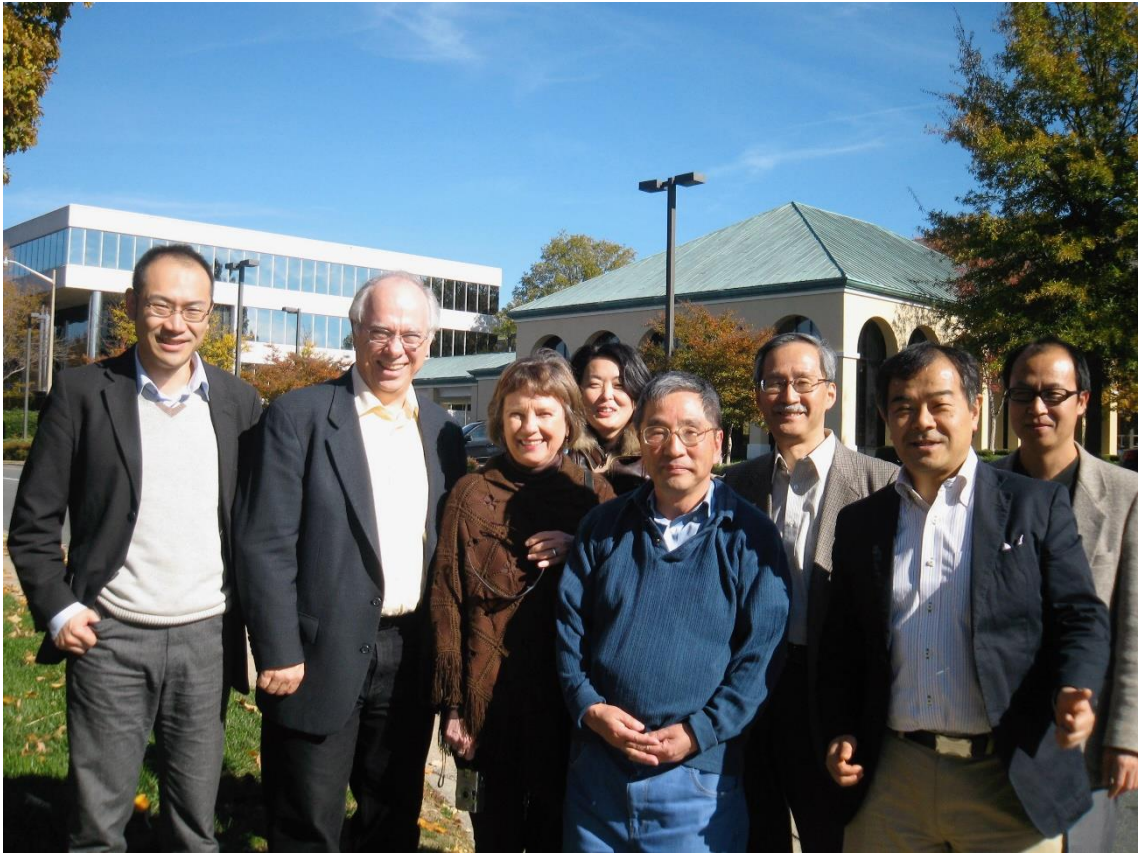
brain 病の連鎖領域にある、原因にならないか？というものでした。このような話は山ほどあり、小生は最初「な、わけない」と思っていたのですが、調べたらなんと原因遺伝子になっているではないですか、世界で最初の発見でした。両グループで一生懸命論文を書き、小生など夏季休暇中の実家の近くのホテルのプールサイドで遠藤先生と電話でやりとりしながら、「よし投稿だ！」と小躍りしたことが今も忘れえません。

また思い出は山ほどあり、アメリカの某大企業の CEO の孫が糖鎖異常型筋ジストロフィーで、世界中から 2 年に 1 回関連研究者をよんで、シャーロットという何もない金融の街でシンポをおこなうのですが、遠藤先生と奥様もついて、毎回よばれていっていたのも忘れられません。もっとも訪れたアメリカの都市はシャーロットです。これら一連の研究により共同で朝日賞、日本学士院賞などを受賞することができ、陛下の前で御説明したのもいい思い出です。

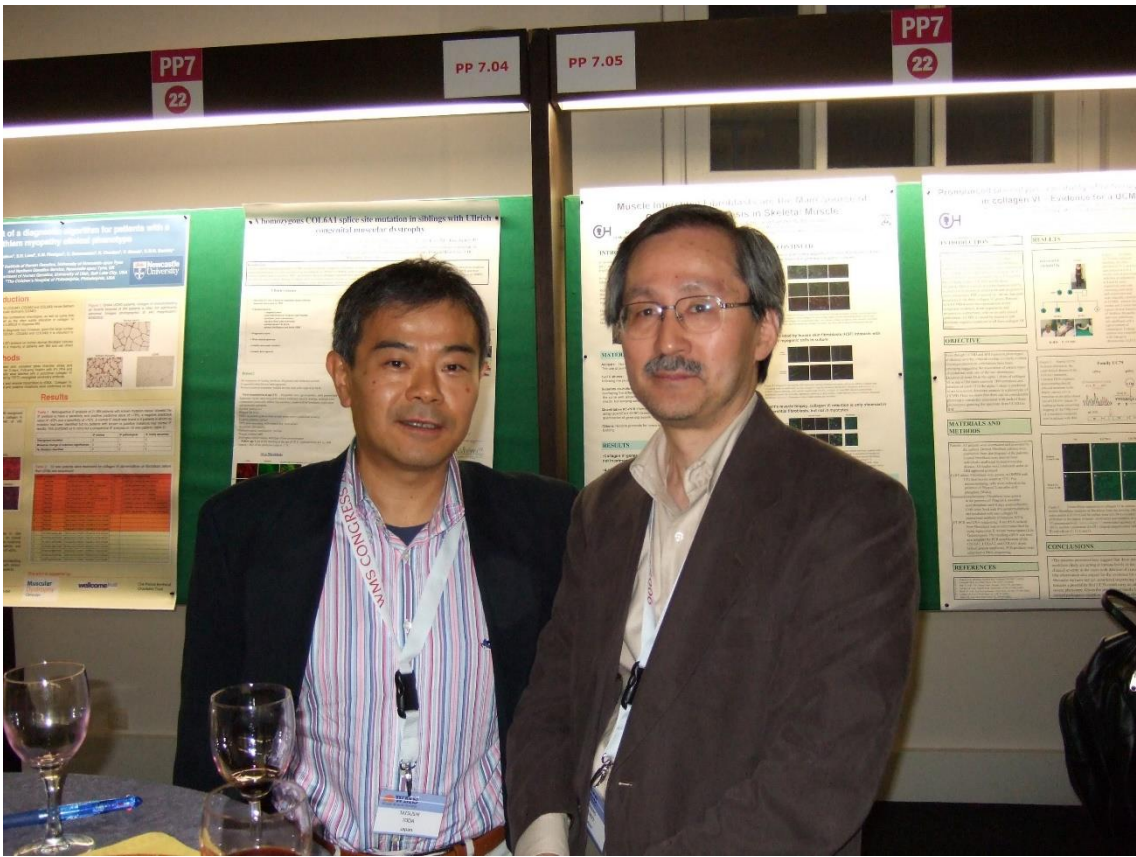
皆さま遠藤先生をご存知の方は私と同じようにお思いかもしれませんが、遠藤先生はお酒が好きで「斜にかまえた酒飲み」という印象で、でも慈愛に満ちたアドバイスをくれるいい兄貴的な存在でした。毎年班会議の後ビストロに皆で行っていましたが、ご病気になられてからは酒を止められていて、最後に行った昨年暮れのビストロでも 1 滴も飲みませんでした。まだまだ我々後進を指導していただきたいことがいっぱいありましたのに残念です。

遠藤先生、先生は今、全ての重荷を下され天国で憩っておられると思います。残されたご家族やお弟子さん方の平安を心よりお祈りしています。御冥福を御祈り致します。合掌









# 呈 式

新聞文化財団・朝日新聞社

